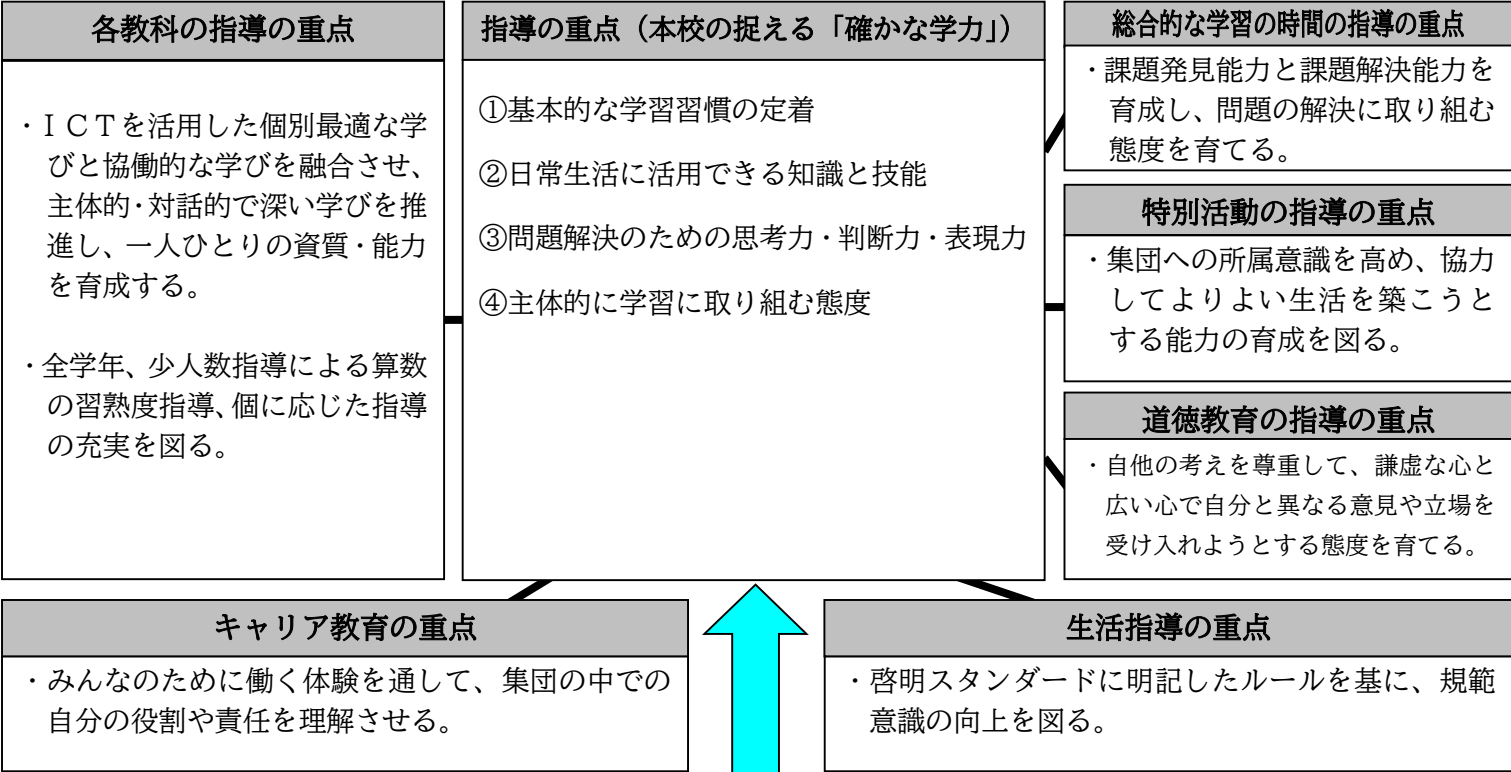


学校教育目標
「よく学び よく遊び やさしく かしこく たくましく」 教育基本法の理念に基づき、個人の尊重を重んじ、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間を育成する。

令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
夢と希望をもち、自己実現を図る学校 ・生きる力につながる確かな学力を育む。 ・児童の安全意識の向上を目指した安全教育の充実を図る。 ・教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを組織的・計画的に進め、授業の中で積極的に地域の人材活用を図る。 ・学びの連続性を踏まえ、保幼小中連携教育の充実を図る。



2 各教科における授業改善プラン

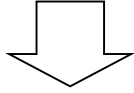
(1) 国語科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	- 言葉のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読を楽しむことができる。 - 文章の中で拗音、促音、長音や「は・を・へ」を正しく使えるようにすることが課題である。 - 自分の思いや考えを伝える力を身に付けさせる時間が十分でなかった。	- 書いたものを読み直し自分で直すことで、正しい表記を身に付けられるようにする。 - ペアで自分の思いや考えを伝える活動を多く取り入れる。 - 朝学習を活用し、言葉の知識・技能の能力を伸ばす。

現状分析		授業改善プラン
区学力調査の結果の分析		具体的な授業改善案（手だて）
2年	- 平均正答率は、目標値を上回っている。 - 漢字を読み書きする問題の正答率が高いが、文章を書く問題の正答率が低い。	- 朝学習の「書くことタイム」や授業の学習感想を書く時間を活用し、自分の思いや考えを書くようにする。 - 文章の型やモデル文を提示することで段階を踏んだ書き方の指導を行う。 - 自分の思いや考えを表現する際に、ICTを活用する。 - デジタル教科書を活用し、文の書き方を電子黒板上で確認する。
	授業における課題 - 文章を書く際に、個別に指導する時間の確保が十分でなかった。 - 自分の思いや考えを表現することができるように、ペアやグループでの話し合い活動を充実させる必要がある。	
3年	区学力調査の結果の分析 - 校内平均正答率が8%を下回る。 「話を聞きとる」「漢字を読む」の領域は、校内平均正答率が目標値より点数が高い。とくに「話を聞き取る」の領域は全国平均正答率より3点ほど高い。 - 説明文の読みとりや書く領域全般は、校内平均正答率が70点台に達することが課題である。。	「話を聞きとる」領域では、話し合い活動を多くとり入れているので、相手意識や目的意識をもって正しく話を聞いている成果がでている。国語科に限らず、他教科でも取り入れていく。 - 説明文の読みとりでは、問いに対しての答えを見付けることが難しい児童がいた。これまで教科書に色別にラインを引いたり、ワークシートに書いて学習してきた。また、電子黒板を活用して視覚的分かりやすくしたが、児童の発達段階をより考慮して学習内容と関連付けた体験活動を取り入れていきたい。 - 書く領域では、これまでの学習の他に朝学習の「書くことタイム」の中で漢字を使うことや書く内容を選択する力を伸ばしていく。
	授業における課題 - 漢字を読むことはできるが、漢字を正しく書かせることが指導の課題である。 「文章を書く」領域では、何を書いていいか迷う児童がいる反面、書きたい内容が厳選できずに混乱してしまうことが指導の課題である。書く内容を選択する力を身に付けさせる。	
4年	区学力調査の結果の分析 - 国語の結果は、平均正答率が目標値から10点近く高い。 - 物語や説明文の内容の読み取りができていない児童が多い。 - 漢字の書き取りや言葉の特徴や使い方はに関する事項ができていない児童が多い。 「話すこと聞くこと」の領域が平均を下回っている。	- ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、具体的な会話モデルを提示することで、段階を踏んだ話し合い活動の指導を行っていく。 - 話し合いの特性に応じて、ICTを活用していく。 「書くことタイム」を活用し、普段から、「初め・中・終わり」を意識して書くことができるように指導していく。
	授業における課題 - 話し合い活動でICTを活用しながらお互いの意見を深めることができていなかった。 - 段落構成を考えて文章を書くことや、自分の思いや考えなどを書くことが少なかった。	
5年	区学力調査の結果の分析 - 平均正答率は、目標値から11点高い。 - 基礎の正答率が8割を超えており、力として定着している児童が多い。 「漢字を読む」の正答率が約97%なのに対して「漢字を書く」の正答率が72%にとどまっている。	- 漢字ミニテストを継続的に行っていくとともに、習った漢字は書くようにノート指導をしていく。 - 単元の導入の段階で、自分の考えや思いをもつことができるような学習課題を設定できるようにする。 - 単元のまとめでは、話し合いにより深まった自分の考えや思いを表現できる場を作る。
	授業における課題 - 自分の考えや思いの表現方法、まとめ方についての指導が十分ではなかった。 - 自分の考えや思いを話し合い、認め合う場の設定が少なかった。	

6 年	区学力調査の結果の分析			・何をどのように書いたらいいか、モデル文の提示などを通して具体的に指導していく。 ・物語の内容を読み深めていくことや、説明文の内容を論理的に考えることができるような、単元計画を作成する。 ・自分の考えや思いを相手に伝え、話し合う活動を積極的に取り入れる。
	・平均正答率は、目標値を上回っている。 ・漢字の書き取り、言葉の特徴・使い方に関する事項ができている児童が多い。 ・「書くこと」「読むこと」の領域が平均を下回っている。			
	授業における課題			
	・考えを整理し、表現する方法についての指導が十分でなかった。 ・物語や説明文の内容について、自分の考えや意見を出し合い、認め合う機会が少なかった。			

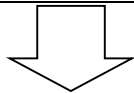


現状分析を受けて、6年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策	
自分の考えや思いを相手に話したり、書いたりして伝える力を身に付けさせたい。また、聞いたことや書かれた内容をもとに、考えを広げたり深めたりできるようにしたい。そのために、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、話す機会を意図的に増やし、話し合いの特性に応じて、ICTを活用していく。また、書く活動を継続的に行い、何をどのように書いたらいいか、モデル文の提示などを通して具体的に指導していく。	

(2) 社会科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
3年	・中野区の地理的環境について興味をもつとともに、身近な地域の様子について意欲的に学習する児童が多い。 ・調査活動、地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめることが課題である。 ・身近な生活から課題を見出し、それらの解決のために自分でできることを考えられる力を付けさせる。		・単元の導入では、自分の身近な生活を想起させ、学習してみたいことや知りたいことを学級で意見交換しながら学習問題をつくる。 ・地図や写真などの資料から読み取らせる情報を整理したり比較したりして、違いに気付かせまとめさせる。
4年	・資料や写真から、気付いたことや分かったことをノートに書くことができる児童が多い。 ・調べたことをもとに様々な方法を使って表現することに課題である。 ・写真や地図、グラフ資料を見比べて、読み取ったことを整理して表現する学習活動の時間が少なかった。		・単元の導入では、児童にとって身近な映像資料や写真資料を提示し、自分の経験と関係から素朴な疑問を引き出す交流活動を通して学習問題を作っていく。 ・グラフや表の読み取りにおいて、量や種類、変化などを具体的な視点から児童の実態に合わせて指導する。
5年	・日本の国土や産業に興味関心をもち、学習に熱心に取り組む児童が多い。 ・複数の資料から取り出した情報を関連付け、他の課題を読み取ったり、解決策を考えさせたりすることが課題である。 ・課題に対しての、自分なりの見方、考え方を交流する時間が少なかった。		・単元の導入で、日本の国土や産業について、自分なりの見方・考え方を交流し合うことで学習問題を作る。 ・学習課題を追究する中で、ICTを効果的に活用し、複数の資料から取り出した情報を比較・関連付けて考えを互いに深め合う授業を行う。 ・単元のまとめでは、既習した内容を基に、自分なりの解決策を考え記述させる。
6年	・歴史の学習に興味をもつ児童が多い一方、政治の学習について苦手感をもつ児童がいる。 ・学習問題に即して、適切に調べ学習ができる児童が多い。 ・学習内容と自らの生活と関連付けて考える活動が少なかった。		・単元の導入では、学級全体で疑問や意見を出し合って学習問題を立て、問題解決的な学習を展開する。 ・調べ学習の中で、調べた内容を自分の言葉で表現する時間を確保する。 ・社会的事象を、時間的な経緯、地理的な位置、空間的な広がり等に注目させ、多様な視点で考えられるようにする。 ・単元ごとに自分との関わりを表現する活動を取り入れる。



現状分析を受けて、4年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策

学習問題の解決に向けて必要な情報を適切に選択・判断して表現する力を身に付けさせたい。そのためには、調べたことや自分の考えをノートに書いて表現する活動を多く取り入れるだけでなく、グループ内で議論したり、話し合ったりする活動の時間も確保していく。また、単元の導入時には児童の興味関心を引きつけるような資料や経験の想起の場面を用意することで、児童自らが課題を設定し、その解決に向けて意欲的に取り組めるようにしていく。

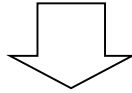
(3) 算数科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて）
1年	・ 10までの加法・減法の計算は、ほとんどの児童ができる。 ・ 文章問題では文章の意味を正しく理解できるようにすることが課題である。 ・ 学んだことを生活と結び付けて捉える力を身に付けさせること。	・ 授業や朝学習で、習熟プリントに繰り返し取り組ませ、文章問題に慣れさせる。 ・ デジタル教科書の動く場面絵や算数ブロックを活用し、文章問題の場面をイメージしやすくして、正しく理解できるようにしていく。 ・ 自分の生活と結び付けて問題を捉える導入のさらなる工夫をする。

現状分析		授業改善プラン
区学力調査の結果の分析		具体的な授業改善案（手だて）
2年	・ 平均正答率は、目標値を上回っている。 ・ 数と計算の領域は、定着してきている児童が多い。 ・ 「図形」、「測定」の領域が目標値を下回った。 ・ かたちでは、方向や位置を理解する問題の正答率が低い。	・ 具体物などを用いた算数的活動を多く取り入れた授業を展開していく。 ・ 朝学習の時間に東京ベーシック・ドリル等を活用して「数と計算」領域の力をさらに付けさせていく。 ・ デジタル教科書を活用し、ものの形を視覚的に捉えられるようにしていく。
	授業における課題 ・ 具体物を用いた算数的活動が十分でなかった。 ・ 基礎の内容を活用できる文章問題や応用問題の演習が十分ではなかった。 ・ 視覚的にものを捉えることができる活動を行う必要がある。	
3年	区学力調査の結果の分析 ・ 平均正答率は、目標値から5点高く、全国平均と同程度である。 ・ 思考・判断・表現の観点では区達成率より7%低い。 ・ グラフを読み取って、表に表す力を定着させる。	・ 児童が体験を通して必要になる時刻や時間を測定して表したり、必要な時刻や時間の求め方を考えさせたりする。 ・ 単元の振り返りでは、既習した内容が身近な生活でどのように活かされているか考えさせる。 ・ 単位の前に接頭語k（キロ）がつくと1000倍になることに気付かせて、それぞれが倍の関係にあることを図や文章でまとめて考えさせ、単位についての理解を深めさせる。
	授業における課題 ・ 「時こくと時間」の単元では、時刻や時間の求め方を定着させる。 ・ 学習した内容が身の周りの生活につながっているという意識を高めさせる。 ・ 「長さ」の単元では、単位を換算するときに混乱しないように指導を行う。	
4年	区学力調査の結果の分析 ・ 算数の結果は、平均正答率が目標値から10点近く高い。 ・ 学力調査の結果から、基礎的な知識や技能を身に付けている児童が多い。 ・ 「時こくと時間」の領域が著しく低い。	・ 問題文を身近な物に置き換えたり、授業の導入時に身の回りの生活を想起させ、イメージしやすくする。また、水やゴミの量など他教科で学んだことを活用できる問題作りを工夫していく。 ・ 基礎的な作図技能が身に付いていない児童に対して個別に課題を出していく。 ・ 東京ベーシックドリルを活用し、著しく低い領域を中心に個別に課題を出していく。
	授業における課題 ・ 学んだことを生活と結びつけて捉えることが難しい児童が多い。 ・ 式の意味を線分図やテープ図、数直線や表にして捉えさせることが指導の課題である。 ・ 作図が定着することが指導の課題である。	
5年	区学力調査の結果の分析 ・ 平均正答率は、目標値から15点高い。 ・ 基礎の正答率が8割を超えており、力として定着している児童が多い。 ・ 内容別正答率では、ほとんどの項目で80%以上であるが、「面積」と「折れ線グラフ」は約70%にとどまっている。	・ 東京ベーシック・ドリルや学習の前に既習事項の確認をすることにより、基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・ 「図形」では、合同な図形や、角柱や円柱など日常生活の事物からものの形の認識を深めさせ、より具体的なイメージをもたせる。 ・ 「データの活用」では、生活場面と結び付けて指導し、図を拡大するなど児童にとって理解しやすくする。
	授業における課題 ・ 解決方法の検討場面では、よりよい解決法を導くための意見の交流や議論の場が少なかった。 ・ 基礎的な知識・技能が身に付いていない児童に対して、反復練習するための時間が十分でなかった。	

6年	区学力調査の結果の分析	・学習問題に対して、解決の過程を自分なりに表現し、友達の考えと比較する活動を多く取り入れる。 ・友達と考えを伝え合うことで学び合ったり、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設ける。 ・数や式について説明する際に、具体物、図、表、グラフなどを元に説明すると分かりやすくなることを、実際に児童に書かせる活動を取り入れることで意識させていく。 ・「図や表、グラフ」をかくためのワークシートを予め用意し、解決の手順を明確にすることで、苦手感をもつ児童への手だてとする。
	・平均正答率は、区平均・全国平均をともに上回っている。 ・「活用」の問題の正答率が、全国平均を下回っている。 ・学習アンケートの「身の回りのことを表やグラフで表してみたい」「問題を図や表で表して分かりやすくしている」の項目で、否定的な回答をした児童がおおよそ半数いる。	
	授業における課題 ・目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方を考察したり、表現したりする活動が十分でなかった。 ・問題を図や表で表すことができるようにすることが、指導の課題である。	



現状分析を受けて、6年間を通して算数科で身に付けさせたい力とその方策

- ・算数は現在の学年の学習ができていないと次の学年の学習の理解が難しくなるため、どの学年もまずは基礎基本の学習をしっかりと身に付けさせたい。基礎基本の定着のために朝学習時の東京ベーシックドリルの活用を続けていく。また授業の中でも未習熟のところを補充する時間を確保していく。
- ・算数の学習では答えは一つだが、その過程は何通りもある。その過程こそが深い理解につながる。答えが合っているかだけでなく、どのように解いたのかという自分の考えを説明できる力を身に付けさせたい。そのために、授業の中で問題を把握する、自分で解き方を考える、友達と解き方を伝え合うという3つの活動を取り入れていく。
また理解を深めていくために、式だけでなく絵や図、表などを用いて説明したり電子黒板を用いて抽象物を具体的に捉えたりしていく。

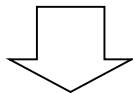
習熟度別少人数指導の充実に向けて

- ・習熟度別の利点を生かし、そのクラスの習熟に応じて授業を展開していく。
- ①理解に合わせて考える・伝え合うのどちらの時間を多く取るかなど工夫をしていき、深い理解につなげる。
 - ②任短教員を習熟コースに重点的に配置し、より個に応じたきめ細かな指導をしていく。

(4) 理科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
3年	- これまでの自分の経験や想像から抵抗なく、楽しく予想することができる児童が多い。 - 予想と結果が異なっても新しい発見を楽しんでいる。 - 実験を行う際に説明を正確に聞きとる力や実験の順序の理解力を定着させる。 - 分かったことから次の学習へつなげることや生活に生かす力を高めるように指導していく。		- 観察や実験を通して、今以上に児童の知的好奇心が向上するように観察、実験を充実させる。 - 学習内容を振り返ることができるノートづくりを徹底する。（予想・結果・分かったこと・感想の流れ） - 学習したことが生活の中でも活用されていることや活用できる事例を知るためにデジタル教材の活用をする。
4年	- 自分の経験から、予想し、自分の考えを表現できるようにすることが課題である。 - 実験の結果から、分かったことを考察することを十分に定着させること。		- 観察や実験では、問題解決的な学習を意識してノートに分かりやすく書く指導をする。 - 実験の結果から分かったことを書くときには、再度問題に戻って考えるよう指導する。 - 予想と違ったときにそのままにするのではなく、原因を考えることができるように指導する。
5年	- 観察・実験の活動では、目的・問題意識をもって主体的に取り組むことができている。 - 予想・仮説を立てる場面では、生活体験や既習事項を基に立てることができる。 - 実験計画を考える場面では、制御すべき要因と制御しない要因を区別して考えさせることが課題である。 - 実験結果から考察する際、他の実験結果などを基にわかったことを考えさせることが課題である。		- 実験計画を立てる場面では、実験器具などを実際に操作しながら、制御すべき要因と制御しない要因について考えさせる。 - 考察の場面では、他の児童の考えを共有する場面を設けることで、結果から分かったことをノートなどに表現できるようにさせる。
6年	- 自然事象への関心・意欲が高く、意欲的に学習に取り組んでいる。 - 自然の事物・現象から問題を見出すことはできるが、目的意識をもって観察、実験などを行い、考察できるようにすることが指導の課題である。		- 実社会・実生活との関連を重視する内容を充実させていく。 - 観察・実験など体験的な学習を通して、その結果を個人だけでなくグループで考察する活動を大切に、なぜそのような現象が起きるのかを科学的に考える力を養っていく。



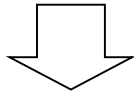
現状分析を受けて、4年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

- 理科の見方・考え方を働かせながら、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を身に付けさせたい。
- 問題解決的な学習の流れに沿って学習を行い、各学年の重点（3年：問題作り 4年：予想・仮説 5年：実験計画 6年：考察）に対して、手だてを行う。その際、理科の見方・考え方を大事にしながら授業を行っていく。

(5) 生活科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・学校探検などの体験的な活動を通して、学校の施設や、学校生活を支えている人たち、友達に関心をもち、楽しみながら、学校生活について理解を深めている。 ・自分で植物を育てることで、積極的に自然と関わり、大切に育てることができている児童が多い。 ・自然と関わる体験を通して、気付いたことや感じたことを言語化したり絵や文章で表現したりする力を身に付けさせること。	・様々な気付きが生まれるような活動や体験を設定していく。 ・観察や活動をしている時の児童のつぶやきを拾い、よい気付きを全体に紹介して広めるようにする。 ・ペア活動を取り入れ、自分が気付いたことや感じたことを伝え合い、表現する時間を多く設定する。 ・よい気付きや感じたことを学級全体でまとめる時間を十分に確保する。
2年	・身近な自然との関わりの中で積極的に観察をしたり、触れ合おうとしたりする児童が多い。 ・おもちゃ作りでは、遊びに使うものを工夫し、友達と協力して取り組んでいた。 ・自分の考えとは違う友達の新たな考えに気付くことができる活動を多く取り入れる必要がある。	・体験活動を行い、児童の願いや思いを基に学習を進めていく。 ・ペアでの活動を多く取り入れ、友達との協働学習をする時間を確保する。 ・Jamboard等を活用し、考えを交流できるようにする。

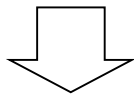


現状分析を受けて、2年間を通して生活科で身に付けさせたい力とその方策
身近な人々、社会、自然を自分との関わりで捉えて自分自身や自分の生活について考え、自分の考えを様々な方法で表現する力を育てたい。また、自分の考えとは違う友達の新たな考えに気付けるようにしたい。そのために、ペアでの活動を多く取り入れ、友達と協働学習をする時間を確保し、自分の考えを表現できるよう授業を行っていく。Jamboard等を活用し、考えを交流できるようにする。

(6) 音楽科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・楽しんで音楽活動に参加する児童が多い。歌詞の内容や、曲の雰囲気に合わせて、体を動かしながら楽しんで活動している。 ・曲の雰囲気に合う表現ができるようにすることが、指導の課題である。 ・鍵盤ハーモニカの技能を十分に定着させること。		・聴いて感じたことを言葉にして全体に共有し、曲に合うような表現を全体で考えながら活動する場を設定する。 ・鍵盤ハーモニカの練習動画を活用し、個別に練習できるようにする。
2年	・歌詞の内容や、曲の雰囲気を感じながら、楽しんで活動している。 ・曲に合う音色や発声に気付かせながら指導することが課題である。 ・鍵盤ハーモニカの音域の広がりや、指使いなどの技能を定着させること。		・感じ取ったことをどう表現したいか問いかけ、気付かせる。 ・スモールステップで進め成就感をもたせる。
3年	・歌詞の内容から想像を膨らませて歌ったり、音色に気を付けて器楽演奏などを楽しんで活動している。 ・リコーダーの構え方や、息の強さ、運指を定着させること。		・演奏の際に気を付けるポイントを提示して意識させる。 ・ペアやグループで見合う活動を通して、学び合いながら技能の定着につながるように場を設定する。
4年	・歌唱、器楽など、興味をもって楽しみながら主体的に活動している。 ・楽しい気持ちに先走りせず、曲に合わせた表現ができるように指導すること。		・曲の雰囲気や歌詞の内容などから、どのような音色で演奏したいかを話し合い、演奏につなげられるよう指導する。 ・自分たちの演奏を録音して聴き、客観的に感じられるような活動を取り入れる。
5年	・演奏や、鑑賞に興味をもって主体的に活動している。 ・間違えずに演奏することだけに集中しすぎず、音色を意識した演奏ができるようにすることが課題である。		・曲想で感じたことを言葉にし、全体で共有して演奏につなげられるよう指導する。 ・自分たちの演奏を録音して聴き、音色や音の重なりを客観的に感じられるような活動を取り入れる。
6年	・器楽や歌唱を楽しみながら主体的に活動している。また、曲を聴いて想像したことや、感じたことを言葉で表現しながら伝え合っている。 ・言葉にしたことを、演奏につなげられるように指導することが課題である。		・様々なパターンの表現の演奏を試してみて、体感させながら曲想に合う表現を選ぶ活動をする。 ・演奏を録音して客観的に聴き、曲の雰囲気や音色などを客観的に感じられるような活動を取り入れる。



現状分析を受けて、6年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を身に付けさせたい。そのために、鑑賞では、気付いたこと感じたことを言語化し伝え合う活動を行う。また、表現では思いや意図をもって表現できるようにするために、基礎的な技能の定着を図るという取組を行っていく。

(7) 図画工作科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・感じたり考えたりしたことを色や形に表すことを楽しんでいる。 ・制作の最後まで集中できるよう適切な声かけを行う必要がある。 ・材料や道具の使い方を習得させる時間が不足している。	➡	・身近な材料や道具に慣れ親しみ、いろいろ工夫して制作に取り組めるよう指導する。 ・ハサミ、糊がしっかり使え、絵具が適切に扱えるようにする。 ・手順を明示して個別指導ができるようにする。
2年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・感じたり考えたりしたことを色や形に表すことに興味をもち、新しい課題に意欲的に取り組んでいる。 ・着色や接着などの基礎的な技能のの定着に努める。 ・制作への関心意欲は高いが仕上げる時間に差が出る。	➡	・制作活動のねらいと見通しを児童に明示して、十分な活動時間を確保する。 ・道具を正しく使って基本的な技法に習熟するよう丁寧な技術指導に努める。 ・手順を明示して個別指導ができるようにする。
3年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・新しい技法や材料に対して関心が高く、意欲的に取り組んでいる。 ・限られた時間の中で見通しをもって活動するよう指導していく。 ・関心意欲は高いが、児童によって制作時間に差がある。	➡	・既習の技術であっても、活動の中で再確認して取り組ませる。 ・題材のめあてを明示し、見通しをもって活動できるよう指導する。 ・道具の使い方や基本的な技法を既習事項を確認しながら身に付けさせる指導を行う。
4年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・新しい技法や材料に関心を持ち、独自の作品を作ろうと意欲的に取り組んでいる。 ・制作の目処や見通しをもち、制作にじっくり取り組み、丁寧な作業ができるよう支援が必要である。 ・関心意欲は高いが、児童によって制作時間に差がある。	➡	・様々な作例を示し、児童が豊かなイメージをもって活動できるよう指導する。 ・実現可能なイメージをもち、独自の工夫をする時間を確保して、じっくり取り組ませられるよう指導する。 ・ICT 機器を使って作品紹介を行う。
5年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・制作行程を自分で考え、進めていく力が付いてきている。 ・集中力を高め主体的に学ぶ姿勢を促して、自分を表現する力を身につけさせること。	➡	・制作に応じた材料を種類豊富に準備する。 ・制作活動の目指す仕上がりをしっかりイメージさせる。そのため ICT 機器を活用する。 ・制作の種類や共通する手法ごとにグループ指導を入れる。 ・必要に応じて個別支援の手立てをとる。
6年	・感染防止に必要な準備をして活動させている。 ・構想や見通しを立て、自分にできる制作を選択している。 ・手順を追って計画的に進めたり、友達と協調して制作に取り組んだりする力を身につけさせること。	➡	・制作に応じた材料を種類豊富に準備する。 ・制作イメージをしっかりとらせ、児童がめあてをもって活動できるよう指導する。 ・児童の制作意欲を高め、制作の種類や共通する手法ごとにグループ指導を入れる。 ・安全を第一に個別支援を行う。 ・ICT 機器を活用して鑑賞授業を行う。

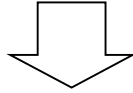
現状分析を受けて、6年間を通して図画工作科で身に付けさせたい力とその方策

- ・そもそも制作活動は児童の主体的な取り組みを前提としている。児童の考えや創作イメージを大切にしながら、それを色や形に表すことができるよう技術指導を丁寧に行って、児童が制作活動を通して自己実現できる力を育てていく。
- ・材料についての知識や感覚を豊かに育み、道具の取り扱いや安全への指導を十分に行って、実際の色や形に表現しようとする意欲を伸ばしていく。
- ・ICT 機器を使って、芸術作品に学ぶ機会を作り、作品鑑賞を通して児童の感性に働きかけ、視野を広げていく。

(8) 家庭科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
5年	・意欲的に学習に取り組んでいる。 ・技能面において、児童間の差が大きい。 ・学校で学んだことを生活に生かす場を設定することが課題である。		・単元の導入で、日常生活の中から自分なりの問題を見出して、課題を設定していくようにする。 ・ICTを効果的に活用するなどして、個に応じた指導を行う。 ・単元のまとめで、家庭と連携しながら、実践する機会を設けるようにする。
6年	・学習に意欲的に取り組んでいる。 ・児童の生活実態が様々であり、個に応じた指導が必要である。 ・学校で学んだことを生活に生かそうとする児童とそうでない児童との差が大きい。		・単元の導入で、自分なりの生活実態を把握し、個に応じた課題を設定していくようにする。 ・グループ活動を通して、課題を解決できるようにする。 ・単元のまとめで、家庭と連携しながら、学習内容を活用できるような機会を多く設定していく。

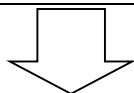


現状分析を受けて、2年間を通して家庭科で身に付けさせたい力とその方策
意欲的に取り組むことのできる児童が多いが、技能面や課題解決の場面で個人差が大きい。日常生活の中から課題を設定し、課題解決に向けて取り組み、それをまた日常生活に生かすことができる力を身に付けさせたい。そのために、ICTを活用した個別指導や、グループを活用した課題解決学習を取り入れていく。さらに家庭と連携することで、学習内容を実践し活用する機会を多く設定する。

(9) 体育科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・運動することを楽しんでいる児童が多い。 ・苦手なことに対して意欲的に活動させることが課題である。 ・運動遊びを自分なりに工夫して、他者にその工夫を伝える力を身につけさせる。		・持久走やなわ跳びなどの体育的活動でカードを活用して意欲をもたせ、取り組む姿勢を褒めることで自信をもたせる。 ・スモールステップで取り組み、工夫したことやうまくできたことを友達同士で認め合える場を設定する。
2年	・楽しみながら、意欲的に体を動かしている児童が多い。 ・遊びのきまりを守れるようなルールの工夫が十分ではなかった。 ・運動遊びの中で、自分の工夫を伝えたり、友達の工夫を取り入れたりすることができる活動をしていく必要がある。		・学習カードを活用し、自分の取り組みを振り返り、次時の活動に生かす。 ・遊びのきまりを児童との合意形成をしながら話し合うことで、きまりを守る態度を育む。 ・活動の中で、友達の動きを見たり、協力して取り組んだりする時間を確保する。 ・動きを選択したり、工夫を示したりできるよう掲示を工夫する。
3年	・体を動かす楽しさや喜びに触れ、意欲的に運動している児童が多い。 ・用具の使い方、場の安全の確保等、運動の行い方を十分に定着する指導をしていく。 ・自分の課題に気付いて取り組む力を定着させる。		・お互いの技を見合って、よいところを伝え合う時間をつくる。 ・自分の課題に応じた、場や練習の仕方を提示する。 ・児童が成功体験を得やすいように、課題やルール、場や用具等の設定をする。
4年	・楽しみながら意欲的に運動に取り組んでいる児童が多い。 ・自分の課題に応じた場を選択したり、練習の仕方を考え出したりすることを十分に定着させること。		・各運動がもつ特性を理解させることで、自分の課題に応じた場や練習の仕方を提示する。 ・振り返りカードに自分の課題を書かせ、自己の課題に応じた場や練習の工夫を話し合うことで、次時に主体的に取り組むことができるようにする。
5年	・男女共に、意欲的に体を動かす児童が多いが、運動に苦手意識があり、自発的に体を動かすことに課題がある。 ・感覚的に体を動かしているため、動きのポイントを言語化できるようにすることが課題である。 ・友達同士動きを見合うことはできるが、見合う観点が定まりきらないことがあるため、子ども同士が具体的にアドバイスできるようにすることが課題である。		・友達同士の見合う観点を定め、ICTを活用しながら客観的に自分や友達の動きを見て、課題を見付けたり、より良くするための方法を考えたりする。
6年	・運動をすることを楽しみ、意欲をもって学習に取り組んでいる。 ・仲間の考えや動きの良さを認め、取り入れようとする児童が多い。 ・自己の課題を見付けられるようにすることが、指導の課題である。 ・課題の解決のために、自分の考えたことを友達に伝える活動が少なかった。		・学習カードを活用し、動きのポイントや自己や仲間の動きに照らし合わせて、自己の課題を見付けられるようにする。 ・ペアやグループで役割を決めて互いの動きを見合ったり、互いの練習の補助をし合ったりする活動を取り入れ、動きのポイントや助言を互いに伝える機会を確保する。



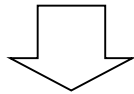
現状分析を受けて、6年間を通して体育科で身に付けさせたい力とその方策

運動において自己の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を身に付けさせたい。そのため、以下の方策を立てる。第一に、自分の課題に応じた場の設定を行う。一人ひとりに応じた場を設定することで、課題の解決に向けて具体的に取り組みやすくなると考える。第二に、ペアやグループでの活動を取り入れる。互いに動きを見合うことで、動きの工夫や改善点などを伝え合うことができる。課題の解決に向かって自分なりに工夫できる児童を増やすことで、体を動かす楽しさや達成感を味わわせたい。

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（児童の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
3年	・興味関心をもって、楽しく学習に取り組んでいる児童が多い。 ・練習回数を重ねるごとに発音が上達している。 ・質問に対しての答え方を定着させる必要がある。		・デジタル教材には、英語だけでなくいろいろな外国語が紹介されているので児童が広い見識をもつきっかけになっている。また、ゲームやチャンツ、歌など、活動が豊富なので児童が楽しく学び続けられるように毎回の授業計画を明確にする。 ・ALT の発音を聞き取り、発音する時間を充実させる。 ・外国語に抵抗がある児童が若干いるので取り組みやすい声かけをしていく。
4年	・友達と行うコミュニケーション活動やゲーム活動では、楽しみながら進んで活動している児童が多い。 ・友達とコミュニケーション活動を行う際、単語の発音の仕方を十分に定着させる必要がある。		・ゲームを取り入れて、主体的に外国語活動に取り組むことができるようにする。 ・繰り返し発音を練習したり、チャンツや歌を歌ったりして、発音を身に付けていく。 ・ALT や iPad 端末 ICT を活用して、聴いた単語の音声をリピートする学習活動を十分に確保していく。 ・動作を表す絵カードや単語カードを継続して活用することで、基本的な表現に慣れ親しみ、自信をもって発音できるようにする。
5年	・基本的な表現を聞き取ったり、表現したりすることができる。 ・基本的な表現をもとに友達とコミュニケーションすることができるようにすることが課題である。		・ALT と繰り返し、単語や基本的な表現を練習することにより、自信をもたせ、友達同士のコミュニケーション能力向上につなげる。 ・外国語の授業だけでなく、学校生活の中で英語の基本的な表現や単語を取り入れることにより、コミュニケーション能力を高める。
6年	・聞くことの学習では、基本的な表現を聞き取ることができる。 ・英語の単語や基本的な表現は自信をもって発声できるが、スピーチや友達同士のコミュニケーションになると自信をもって発声できるようにすることが指導の課題である。		・ALT やデジタル教科書を活用し、音声に親しむ活動を多く取り入れることで、基本的な表現だけでなく応用的な表現も増やしていく。 ・自分の考えや気持ちを自信をもって話せるように、話し方やジェスチャーなど表現方法の工夫も推進していく。



現状分析を受けて、外国語活動・外国語科で身に付けさせたい力とその方策

外国語活動・外国語では、自分からコミュニケーションを取り、会話やスピーチを楽しく行うことができる力を身に付けさせたい。そのために、ALT やデジタル教科書を用いて、音声を繰り返し聞いたり発音したりして、自信をもって友達と会話をしたり、スピーチを楽しみながらしたりできるようにしていく。また、チャンツや歌、ゲームを取り入れ、楽しく活動させることで、苦手意識をもたせないようにしていく。

ALT の活用の工夫

HRT がALT と連携しながら、外国語の音声の基本的な表現に親しみ、国際理解のために必要なコミュニケーション力の素地を養う。また、外国語活動と学校図書館との関連を図り、簡単な外国語絵本の読み合わせなどの活動を通して、言語や外国の文化についての体験的な理解を深める。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

